

誕生100年！

浅草オペラとその熱狂

～ペラゴロとペラゴリーナ～オペラ短歌にも触れながら

日時：2017年10月9日(月・祝)14:00～15:30

会場：県立文学館2階研修室

講師：きょうたによしのり京谷啓徳氏(九州大学人文科学研究院准教授)

文学館で浅草オペラ？と意外に思う方もいらっしゃるかもしれませんが、音楽の歌詞は広い意味での文学の一部ですし、音楽批評などもまた、文学の重要な一部といえます。文学とは何か？ということ、枝葉を切り落として根源的に考えることも無論とても大切ですけれど、文学とつながる世界の豊かな広がりを楽しみすることのお手伝いもまた、わたしたち文学館の大切な役割だと考えます。

そこで今回は、誕生100年を迎えた浅草オペラです！

大正時代(1912-1926)に、銀座などと比べ遥かに庶民的な日本一の繁華街・東京浅草で花開いた大衆芸能としてのオペラ興行である「浅草オペラ」は、本式オペラからオペレッタ、そして和製ミュージカルまで雑多な演目が並ぶ、歌あり笑いあり踊りありのエンターテインメントでした。熱狂的なファンを生み出し、男性ファンはペラゴロ、女性ファンはペラゴリーナと呼ばれました。

イタリア美術研究と並ぶライフワークとして浅草オペラや大衆芸能の研究を続ける京谷先生をお招きし、浅草オペラとは何か？という基本から、その熱狂ぶり、さらにファンが短歌を投稿した「オペラ歌壇」の紹介など、盛りだくさんのお話をスライドなども交えお聴かせいただきます。

〈京谷先生略歴〉

1969年、香港生まれ。東京大学文学部卒業、東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了(美術史学)。博士(文学)。東京大学美術史学研究室助手を経て、2000年から九州大学。

著書に『ボルソ・デステとスキファノイア壁画』(中央公論美術出版、2003年)、『もっと知りたいポッティチェリ 生涯と作品(アート・ビギナーズ・コレクション)』(東京美術、2009年)、『凱旋門と活人画の風俗史 儂きスペクタクルの力』(講談社選書メチエ、2017年)、共著に『ポッティチェリ全作品』(中央公論美術出版、2005年)、『西洋美術史』(武蔵野美術大学出版局、2016年)、『西洋美術の歴史4 ルネサンスⅠ』(中央公論新社、2016年)、『浅草オペラ 舞台芸術と娯楽の近代』(森話社、2017年)、共訳にエドウィン・ホール『アルノルフィーニの婚約 中世の結婚とファン・エイク作<アルノルフィーニ夫妻の肖像>の謎』(中央公論美術出版、2006年)など。

◎申し込み方法

電話、当館受付カウンターで申し込みを受け付けます。参加無料。定員100名(申込順)。

※事前の申し込みが定員に達しない場合には、当日受付も行います。

〒370-3533 群馬県高崎市保渡田町2000 電話027-373-7721



群馬県立土屋文明記念文学館

Gunma Prefectural Museum of Literature in Commemoration of Bunmei Tsuchiya